

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AI・データサイエンス入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
AI・データサイエンス入門	4-3データ構造とプログラミング基礎		
AI・データサイエンス入門	4-8データ活用実践(教師あり学習)		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ビッグデータ、第4次産業革命、Society5.0、人間の知的活動とAI「AI・データサイエンス入門」(第1回)
	1-6 AI等を活用したビジネスモデル(シェアリングエコノミーなど)、AI最新技術の活用例(敵対的生成ネットワークなど)「AI・データサイエンス入門」(第3回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 調査データ、ログデータ、観測データ、構造化・非構造化データ「AI・データサイエンス入門」(第1回)
	1-3 研究開発、マーケティング、販売、サービスなどでのデータ・AI活用、仮説検証、知識発見「AI・データサイエンス入門」(第2回)
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 データ解析、非構造化データ処理「AI・データサイエンス入門」(第2回)
	1-5 データ分析による意思決定、データサイエンスのサイクル、「AI・データサイエンス入門」(第3回)

(4)活用に応じた様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	ELSI(Ethical,Legal and Social Issues)、個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR) 忘れられる権利、オプトアウト権 人間中心の判断 AIサービスの責任論「AI・データサイエンス入門」(第9回) データ倫理:データ捏造、改ざん、盗用、AI社会原則(公平性、説明責任、透明性)、データバイアス、アルゴリズムバイアス、データ・AI活用における負の事例紹介「AI・データサイエンス入門」(第10回)
	3-2	情報セキュリティ 機密性、完全性、可用性、匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取(フィッシングなど)、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス入門」(第11回)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類、データの分布と代表値、代表値の性質の違い、データのばらつき、打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ「AI・データサイエンス入門」(第5回) 相関と因果、母集団と標本抽出、クロス集計表ほか、統計情報の正しい理解「AI・データサイエンス入門」(第6回) データの種類、データの分布と代表値、クロス集計表ほか「AI・データサイエンス入門」(第7回) データの種類、データの分布と代表値、データのばらつき、打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ、相関と因果、クロス集計表ほか「AI・データサイエンス入門」(第8回)
	2-2	データ表現「AI・データサイエンス入門」(第4回) データ表現、データの図表表現、データの比較、不適切なグラフ表現「AI・データサイエンス入門」(第6回) データ表現、データの比較、優れた可視化事例の紹介「AI・データサイエンス入門」(第7回) データ表現、データの比較、優れた可視化事例の紹介「AI・データサイエンス入門」(第8回)
	2-3	データの集計、データの並び替えほか、データ解析ツール、表形式のデータ「AI・データサイエンス入門」(第4回) データ解析ツール「AI・データサイエンス入門」(第6回) データの集計、データの並び替えほか、データ解析ツール、表形式のデータ「AI・データサイエンス入門」(第7回) データの集計、データの並び替えほか、データ解析ツール、表形式のデータ「AI・データサイエンス入門」(第8回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・ AI・データサイエンスの歴史および現状に関する基本的な理解 ・ 最先端のAI・データサイエンス技術の実例を通じた今後の展望の理解 ・ 表計算ソフトを活用した基礎的な統計処理によるデータの可視化方法の習得 ・ 情報セキュリティに関する基礎的な知識の習得と、データの収集と適正な管理のための知識の習得

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
文学部	1,812	405	1,620	46	12	34	39	9	30	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		46	3%						
理工学部	675	155	620	73	51	22	59	39	20	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		73	12%								
経済学部	1,560	345	1,380	61	48	13	41	30	11	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		61	4%								
法学部	1,532	345	1,380	41	31	10	30	23	7	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		41	3%								
経営学部	1,563	345	1,380	57	35	22	38	22	16	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		57	4%								
知能情報学部	558	120	480	137	115	22	106	88	18	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		137	29%								
マネジメント創造学部	780	180	720	29	16	13	24	12	12	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		29	4%								
フロンティアサイエンス学部	187	45	180	1	1	0	1	1	0	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		1	1%								
				0			0			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	#DIV/0!								
				0			0			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	#DIV/0!								
				0			0			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	#DIV/0!								
				0			0			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	#DIV/0!								
				0			0			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	#DIV/0!								
				0			0			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	#DIV/0!								
				0			0			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	#DIV/0!								
				0			0			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	#DIV/0!								
				0			0			0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	#DIV/0!								
合計	8,667	1,940	7,760	445	309	136	338	224	114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	445	6%								

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	6%	令和5年度予定	12%	令和6年度予定	18%
令和7年度予定	25%	令和8年度予定	25%	収容定員(名)	7,760

具体的な計画

本プログラム科目の開講初年度の履修者数は400名を目標としたところ、その約1.1倍の445名が履修登録をした。令和5年度以降はその1.1倍にあたる490名の履修を目標としたい。目標を実現するために、大学公式ホームページに立ち上げた「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」のページや入学前に新入生特設サイトを通じてプログラムの紹介を積極的に行って入学予定者への訴求を行うとともに、入学後も学内広報(ポータルサイト(My KONAN)での周知、履修要項での記載、パンフレット等の配付)を積極的に実施することで、本プログラム科目の履修者数・履修者率を向上させる。なお、学則上初年次教育に位置付けられる科目となっているが、2年次以上の学生への告知を継続的に行うことで、更なる履修者数・履修者率の向上を目指す。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラム科目はすべての学生が1年次より受講できるように配当年次を設定している。またオンデマンド形式での授業となっており、希望する学生が全員受講可能な体制を整えている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

⑧に記載の通り、令和4年度には学生に対して本プログラム科目の履修を促す情報提供を実施することで、一定の効果を上げている。今後は大学公式ホームページに立ち上げた「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」のページや新入生特設サイト等で本プログラム科目に関する記事を充実させていくことで、入学予定者へのさらなる訴求を行っていく。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムの授業についてはオンデマンド形式となっており、動画資料、スライド資料、課題は本学の教育支援システムであるMy KONANに集約され、授業回毎に定められた期間内であれば何度も視聴することで理解を促す体制が整っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業に対する理解の程度や感想、コメントを募集することで、履修学生の進捗度などを把握し必要に応じた対応ができるように措置している。また、本学の教育支援システムMy KONANの質問機能を用いて学生からの質問対応を行っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

全学教育推進機構 組織別内部質保証委員会

(責任者名) 佐藤泰弘

(役職名) 全学教育推進機構長、副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムにおける学生の受講状況、そして受講後に収集したアンケートから、プログラムの履修・修得情報は次のようにまとめることができる。学習マネジメントシステム上での履修者は445名となり、このうち338名が合格し単位を取得した。合格となった学生の平均点は、78.8点となっており、成績の分布は秀:10%、優:28%、良:25%、可:14%、不可:24%となった。本授業では、指定された期間内に教材を閲覧し、出題された課題についても期限内の提出が求められる。学習マネジメントシステムからは、合格した学生の平均課題提出数14.6回(総課題数は15回)となっており、「可」以上の評定を受けた学生は、学習コースの内容について漏れなく十分に取り組んだものと考えられる。</p>
学修成果	<p>前述の通り、出題した課題の採点状況から、合格した学生についてはほぼすべての授業回について、学習期間内に課題の提出が実現された。また、合格者の平均点は78.8点であり、課題の内容理解においても、十分な成果が得られているものと考えられる。授業後に実施したアンケート調査における「この授業を通じて、知識が深まった、能力が高まったと感じますか」という質問項目については、252名の回答中、73.4%の学生が「そう思う・どちらかといえばそう思う」のポジティブな回答となった。以上のことから、本授業で学習者が授業内容について学びを深め、その成果をきちんと身に付ける状況が実現できているものと考えられる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>授業後に学生に対して実施したアンケート調査では、「この授業に意欲的にとりくみましたか?」という質問に対して、252名の回答があり、75.0%の学生が「そう思う・どちらかといえばそう思う」のポジティブな回答となった。また、「授業を履修するにあたり、教員からの指示はよくわかりましたか?」という質問に対しては、253名が回答しており、75.9%の学生が「そう思う・どちらかといえばそう思う」のポジティブな回答となった。履修・習得状況にて紹介した成績の分布状況も鑑みると、本授業に真剣に取り組み、合格の評定を得た学生については、十分な理解が得られているものと考えられる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>学生へのアンケートで、『授業を履修して、「AI・データサイエンス入門」の履修を後輩学生に勧めたいですか?』と直接質問する項目を立てて調査を実施した。その結果、252名の回答があり、64.5%の学生が「勧めたい・どちらかといえば勧めたい」と回答した。他のアンケート項目で「課題の分量が多い・やや多い」と考えている学生が半数程度おり、これがやや低い推奨度につながっている可能性がある。一方、このような課題をこなした結果が「知識が深まった・能力が高まった」という前述のポジティブな回答につながっているとも考えられるため、学習成果は保ちつつ課題の分量や内容を見直し、授業の質と学生の満足度の適切なバランスを調整していく。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	初年度の実績として、当初400名の履修者を想定して準備を実施したが、最終的に445名の履修者を得ることができた。次年度より、履修者数・履修率の向上に向けた計画の中で立案された内容について、順次遂行し、履修者増・履修率の向上を図る。具体的には、入学前の段階での新入生特設サイトを通じたプログラムの紹介、入学後における学内広報を通じた周知、履修要項での記載、パンフレット等の配付)である。並行して2年次以上の学生への告知も継続的に実施する。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは2022年度にスタートし、低年次の履修生が多いことから、修了者の進路、活躍状況、企業等での評価を得るまでには至っていないが、今後はキャリアセンターと連携し、分析を進めていきたい。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	(本プログラムの内容・手法等に関し、ジェネリックスキルを測定するPROGテストを開発する株式会社リアセック様よりいただいた意見は以下の通り) 文系学生も含めたすべての学生向けに提供される「AI・データサイエンス」の入門的学習プログラムとして、体系的かつ実践的な構成が組まれており、極めて効果的な授業であると評価されます。各自がそれぞれのスピードで、確認クイズを踏まえながら学習を進められることに加えて、随時質問できる環境を整えている点も、自己調整学習に対応した優れた授業運営と考えられます。 内容的には、第4回～第8回のエクセルを用いたデータハンドリングの実習の効果は高く、とりわけ、第7・8回に布置された「活用編」の内容は、研究活動においても有効性が高く、データハンドリングスキルはもちろん、論理的思考力(特に非言語処理力)の育成にも効果的と思われます。続く、第9回～第11回でセキュリティについて学んだ後に、第12回以降でPythonを使ったプログラミングを学習する展開は、社会ニーズに合致しており実践的です。特に、scikit-learnライブラリーを使って機械学習まで経験させている点は、リテラシーレベルの学習としての完成度の高さを感じます。一方で、第5回などで統計的検定の話も触れられると、さらに、完成度が高まるように感じます。エクセル関数を使って、簡便に平均値の差や、独立性に関する検定を実践する回を組み込んでほしいと思います。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本授業では、「学ぶ楽しさ」を、概念だけではなく実習による体験を通じて学生に提供する。また、「学ぶことの意義」を、机上の空論にとどまらず、身近な事例によるデータサイエンスの有用性を感じ取ることができる題材を通じて学生に提供する。このため、本授業では、教材や取り上げる内容について継続的に見直しを行い、可能な範囲で最新の話題やトレンドに沿った題材を取り入れ、学生からのアンケート結果も参考に内容に調整を加える。これにより、学生にとって身近な題材がデータサイエンスの視点を通してどのように捉えられるかを、体験的に学ぶことができる授業を目指す。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業後に実施したアンケートでは、「テキストおよび講義資料等は、授業を理解するために十分な分量・内容だったと思いますか？」の質問では、252名の回答があり、64.7%の学生が、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答している。この結果を踏まえ、各授業回における課題の得点状況も鑑み、実習内容について継続的な見直しを実施する。また、学内外のFD活動やデータサイエンス教育を扱う学会誌などを通じた、入門者向けのデータサイエンス教育における教示方略や魅力的な題材に関する情報の入手と活用についても実施する。

授業コード（科目ナンバリング）	A5004100
授業科目名	A I ・ データサイエンス入門（後）
担当者名	吉川 歩（ヨシカワ アユミ）、篠田有史（シノダ ユウジ）、関 和広（セキ カズヒロ）
単位数	2単位
開講期別	2022年度後期
曜日・時限	土曜3限
教室	WEB活用授業
特記事項	
オフィスアワー	質問は随時My KONANのQ&Aコーナーで受け付けます。 （備考：フォーラムを使ったFAQコーナーの開設も予定しています）

授業概要	<p>この授業は、甲南大学のすべての学部の学生に向けて提供される、数理・AI・データサイエンスのリテラシーを学ぶ科目です。今日、社会では、様々な情報を集め、整理し、分析する能力や、そこから新しい価値を生み出す能力が求められつつあります。</p> <p>この授業では、はじめに最新のAI・データサイエンスの基礎知識を学び、どのような社会変化が進行中なのか、どのようなことが課題であり、どのような解決がもたらされているかを理解します。そのうえで、コンピュータを使った基礎的な実習に取り組み、データから知見を見いだすための方法の基礎について、体験を通じて学びます。さらに、様々なデータを安全に扱うためのセキュリティについて学び、情報を適正に管理するための原則についても学びます。最後に、最先端のAI・データサイエンス技術がどのように用いられているか、最新の研究トピックもふくめて学びます。</p> <p>この授業は、受講者のみなさんが授業を通じて自分のペースで内容を十分に習得できるよう、各自がオンライン動画をはじめとした教材に自由にアクセスして進行するオンデマンド形式で実施します。毎回出題される課題を期限内にこなし、成果物を提出しながら、学びを深めていきます。</p>
到達目標	<p>（1）科目における到達目標</p> <p>授業を通じて、次の4つの活動からなる基礎的なリテラシー能力を習得することを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> AI・データサイエンスの歴史および現状に関する基本的な理解 最先端のAI・データサイエンス技術の実例を通じた今後の展望の理解 表計算ソフトを活用した基礎的な統計処理によるデータの可視化方法の習得 情報セキュリティに関する基礎的な知識の習得と、データの収集と適正な管理のための知識の習得 <p>（2）カリキュラム・マップにおける到達目標</p> <p>B：他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を身につける。</p> <p>C：大学における学びの基盤となる基礎的読解力や文章表現力などを習得する。</p> <p>F：情報を読み解き活用する力を身につける。</p>
授業方法	<p>授業はオンデマンド形式で実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画資料、スライド資料、課題は授業日に公開されます。 学習期間内に資料を閲覧し、オンラインで課題に回答します。 表計算ソフトの利活用とプログラミングの実習セッションでは、コンピュータを使って、配布されたデータをもとに処理を行う必要があります。各自でコンピュータが準備できない場合は、学校のパソコン教室を活用する等の工夫が必要になります。
アクティブ・ラーニングの内容	実習、フィールドワーク
準備学習	<p>授業時間外に、下記の取り組みを主体的に実施することが求められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提示された内容を理解し、提示された課題に回答するため、自宅あるいはコンピュータ教室等で教材閲覧以外の追加の自習（毎回30分～、所要時間はみなさんの知識やスキルによって大きく異なります）
必要となる知識	<p>実習に使用するコンピュータの操作に関する知識が必要です。この講義ではコンピュータの操作ができることを前提としています。</p>
授業構成	<p>第01回 社会で起きている変化と活用されているデータ（担当：関）</p> <p>第02回 データ・AIの活用領域とそのため技術（担当：関）</p> <p>第03回 データ・AI利活用の現場と最新動向（担当：関）</p> <p>第04回 表計算ソフトを活用したデータの整理と可視化（担当：吉川）</p> <p>第05回 データの説明のための統計処理の基本（担当：吉川）</p> <p>第06回 データの説明のための統計処理を試す（担当：吉川）</p> <p>第07回 表計算ソフトを活用したデータの説明I（担当：吉川）</p> <p>第08回 表計算ソフトを活用したデータの説明II（担当：吉川）</p> <p>第09回 データ・AIを扱う上での留意事項(1)（担当：吉川）</p> <p>第10回 データ・AIを扱う上での留意事項(2)（担当：吉川）</p> <p>第11回 データを守る上での留意事項（担当：吉川）</p> <p>第12回 Pythonによるプログラミング1（担当：関）</p> <p>第13回 Pythonによるプログラミング2（担当：関）</p> <p>第14回 データ活用実践1（担当：関）</p> <p>第15回 データ活用実践2（担当：関）</p>

実務経験のある教員又は実践的教育による授業科目	該当する
定期試験	実施しない
成績評価	授業回毎に課される合計15回の課題（100%） （備考：すべてMy KONAN上のテスト機能を使い自動採点とします）
教科書	教養としてのデータサイエンス 著者 北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏・著 データサイエンス入門シリーズ
参考書・資料	
授業関連事項	この授業はオンデマンド形式での開講となります。期間内に指定された内容を受講する必要があります。各自計画を立てて主体的に取り組んでください。

担当者から一言	
その他	
ホームページタイトル	
URL	

基礎共通科目と国際言語文化科目

私たちが生きる現代社会においては、個人をとりまく環境や価値観が急速に多様化し、個人が抱える個別の問題を所属する学部固有の専門的知識だけで解決することが次第に難しくなっている。語学や異文化理解力、それに現代社会や経済を読み解くための基礎知識を含めた多様な教養を身につけることこそが、問題の解決にとって何より必要不可欠である。こうした状況を踏まえて、学部で身につけるべき体系的な専門的知識以外に、専門外の多様な基本的知識や概念をある定まった視点に立って体系的・系統的に修得するために設けられたのが、本学独自の『基礎共通科目』と『国際言語文化科目』である。

学則では『基礎共通科目』または『国際言語文化科目』のいずれか一方を履修することが卒業要件に定められており、いずれの科目を履修するかは、1年次に選択しなければならない。

文学部・経済学部・法学部・経営学部

1年次の6月に『基礎共通科目』または『国際言語文化科目』のいずれかを選択し、『国際言語文化科目』を選択した場合には、『A 国際文化コース』、『B 国際コミュニケーションコース』、『C-1 ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語インテンシブコース』または『C-2 英語インテンシブコース』から1コースを選択するため、履修希望コースの登録を行う。

なお、『C-2 英語インテンシブコース』は、定員を設けているので、履修希望者が定員を超えた場合は抽選により決定するが、「英語集中コース」の学生が同コースを希望した場合、優先的に登録を受け付ける。

この登録の結果、各自の卒業に必要となる科目が決定する。決定されたコースの変更は一切認めない。履修は1年次後期より開始する。ただし、『導入共通科目』の履修は1年次前期より開始する。

理工学部・知能情報学部

1年次の4月に『基礎共通科目』または『国際言語文化科目』のいずれかを選択する。『国際言語文化科目』を選択した場合には、『D 理系国際言語文化コース』への履修希望コースの登録を行う。なお、『D 理系国際言語文化コース』は、定員を設けているので、履修希望者が定員を超えた場合は抽選により決定する。

この登録の結果、各自の卒業に必要となる科目が決定する。決定されたコースの変更は一切認めない。履修は1年次前期より開始する。

外国人留学生（正規留学生）**【文学部、経済学部、法学部及び経営学部】**

国際言語文化科目『E 外国人留学生国際文化コース』を選択しなければならない。

履修は1年次後期より開始する。ただし、『導入共通科目』の履修は1年次前期より開始する。

【理工学部及び知能情報学部】

1年次の4月に『基礎共通科目』または『国際言語文化科目』のいずれかを選択する。『国際言語文化科目』を選択した場合には、『D 理系国際言語文化コース』への履修希望コースの登録を行う。なお、『D 理系国際言語文化コース』は、定員を設けているので、履修希望者が定員を超えた場合は抽選により決定する。

履修は1年次前期より開始する。

基礎共通科目の概要

私たちが生きる現代社会においては、つねに唯一の正しい答えがあるとは限らない。複数の答えがある場合や、そもそも答えのない場合さえある。こうした社会を生きる上で、正しいと思われる判断を行うには、正確な情報に基づき、論理的に思考し、結論を導くことが何より重要であるが、そのためには専門的・体系的な専門知識に加えて、幅広い教養が必要なことはいうまでもない。基礎共通科目は、そうした広範な教養を身につけることを主たる目的としたものである。

基礎共通科目においては、科学系統群により幅広く基礎教養を学ぶことができるよう、授業科目を人文科学系、社会科学系、自然科学系の3系統と、学際融合系をあわせた4つの系統に分け、各科学系の授業科目の中からそれぞれ4単位以上、また学際融合系科目の中から2単位以上を修得するよう定めている。

人文科学系、社会科学系、自然科学系の3系統については、科目の内容に応じてさらに4つの「群」に分けており、様々な知識をバランス良く身につけるためには、各「群」から各1科目2単位以上を修得することが望まれる。なお、各系統のA群はリベラルアーツとしているが、これは古代ギリシャに起源をもち、自由七科（文法、修辞、論理、算術、幾何、天文、音楽）を基本とする「人を自由にする学問」にちなむ名称であり、各系統の基本的な領域の科目を配置している。

学部で履修する専門科目以外に、こうした基礎共通科目の履修を通して、社会で生きていくうえでの広範な教養や知識を身につけることができる環境が整っている。また、一部の科目では実社会において豊富な経験を積んだ実務家教員が担当するなど、学問の追及と実践的教育のバランスを考慮したカリキュラムとしている。したがって、卒業必要単位の修得に止まるのではなく、各自の専門分野との関連から、あるいはより広い学びへの知的好奇心から、基礎共通科目を積極的に履修してほしい。

各系統の構成は以下に示すが、科目の内容については、シラバスをよく読んで履修すること。

I . 人文科学系

本領域は、人間の精神や文化を主な研究対象とする人文科学に属する科目を、A群：リベラルアーツ、B群：人間を学ぶ、C群：文化を学ぶ、D群：歴史を学ぶ の4つの群に分けて配置している。

II . 社会科学系

本領域は、人間集団や社会の在り方を主な研究対象とする社会科学に属する科目を、A群：リベラルアーツ、B群：経済を学ぶ、C群：社会を学ぶ、D群：法と政治を学ぶ の4つの群に分けて配置している。

Ⅲ．自然科学系

本領域は、自然界の様々な現象を研究対象とする自然科学に属する科目を、A群：リベラルアーツ、B群：自然の歴史を学ぶ、C群：現代科学を学ぶ、D群：情報を学ぶ の4つの群に分けて配置している。

Ⅳ．学際融合系

複数の要素を併せ持つため、単純に3つの科学系統のひとつに当てはめることのできない、学際的、融合的な科目群である。

Ⅴ．導入共通科目

導入共通科目は、高校までの勉強を大学での「学び」へとスムーズに繋ぐとともに、甲南大学学生としての自覚と誇りを身につけることを目的としたものであって、初年次導入教育として重要な意味をもっている。2018年度以降入学の本学学生は、卒業するための要件として、導入共通科目の中から1科目2単位以上を修得しなければならない。

修得しなければならない導入共通科目は学部によって異なるので、注意すること。

文学部・経済学部・法学部・経営学部

「甲南大学と平生鈺三郎」
 「共通基礎演習」
 「IT 基礎」
 「AI・データサイエンス入門」の4科目

理工学部・知能情報学部

「甲南大学と平生鈺三郎」
 「共通基礎演習」
 「AI・データサイエンス入門」の3科目

「甲南大学と平生鈺三郎」

甲南大学創立者である平生鈺三郎や甲南を巣立っていった人物等について、毎回異なる講師が様々な角度からとりあげる。また、卒業生に登壇いただき、自らの在学時の様子や現在の状況について語っていただくことにより、甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考える科目である。

「共通基礎演習」

甲南大学の建学の精神や教育理念について認識を深め、“甲南大学での学び”の意義を考え、学生生活を“より良き”ものとし、社会人へとつながる生活のスタンスを形成し、自らのキャリア創生（人生のデザイン）に対する認識を醸成していくことを目的とした科目である。学部をこえた少人数のグループを作り、ひとつのテーマを共同で研究する方法をとるため、履修者数に制限を設けている。なお、導入教育という趣旨から、1年次のみを対象とし、2年次以上の履修は原則として認めない。

「IT 基礎」(文系学部対象)

学部学生が専門科目を履修する際や社会人になってから必要となる、情報活用や情報発信に関する基礎的能力の向上を目標としたものである。実習設備に限りがあるため、履修者数に制限を設けている。

「AI・データサイエンス入門」

今日の社会において新たに求められつつある、情報を集め、整理し、分析し、新しい価値を生み出すための、数理・AI・データサイエンスの基礎知識を学ぶ科目である。コンピュータを用いた基礎的な実習、データを扱うためのセキュリティや、最新の研究トピックにも触れながら学びを深める。

基礎共通科目 授業科目表

[2022年度(令和4年度)の入学生に適用]

	人文科学系		社会科学系		自然科学系	
	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
A 群	【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】	
	哲 学	2	社 会 学	2	数 学	2
	倫 理 学	2	法 学	2	物 理 学	2
	心 理 学	2	経 済 学	2	化 学	2
	歴 史 学	2	経 営 学	2	生 物 学	2
	文 学	2	政 治 学	2	地 球 学	2
	哲 学 プ ラ ク テ ィ ス	2	地 理 学	2	生 命 化 学	2
	女 性 学	2	国 際 関 係 論	2		
	現 代 の 芸 術 学	2				
	宗 教 学	2				
B 群	【人間を学ぶ】		【経済を学ぶ】		【自然の歴史を学ぶ】	
	生 態 人 類 学	2	産 業 と 経 済	2	地 球 の 歴 史	2
	環 境 と 文 学	2	企 業 と 情 報	2	生 物 の 歴 史	2
	芸 術 と 社 会	2	歴 史 と 経 済	2	自 然 と 人 間	2
	生 命 と 倫 理	2	現 代 社 会 と 企 業	2	自 然 科 学 史	2
	人 権 (同 和) の 問 題	2	世 界 と 経 済	2	技 術 の 歴 史	2
	感 情 ・ 人 格 心 理 学	2	暮 ら し と 経 済	2	環 境 と 地 理	2
	ス ポ ー ツ と 身 体 知	2	福 祉 と 経 済	2		
			社 会 と フ ァ イ ナ ンス	2		
			ス ポ ー ツ と 経 済	2		
C 群	【文化を学ぶ】		【社会を学ぶ】		【現代科学を学ぶ】	
	こ と ば と 社 会	2	現 代 社 会 論	2	現 代 生 活 と 物 理 学	2
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	2	現 代 都 市 論	2	現 代 生 活 と 生 物 学	2
	イ メ ー ジ と 文 化	2	公 共 哲 学	2	現 代 生 活 と 数 理 科 学	2
	日 本 語 の 諸 相	2	環 境 人 間 学	2	現 代 生 活 と 最 先 端 科 学	2
	比 較 文 化 論	2	社 会 福 祉 論	2	核 と 環 境	2
	芸 術 学 基 礎 論	2	家 族 関 係 論	2	環 境 の 化 学	2
	現 代 思 想	2	歴 史 と 社 会	2	大 気 と 海 洋	2
	近 現 代 の 文 学	2	ボ ラ ン テ ィ ア 論	2	国 際 化 と 情 報 ネット ワ ー ク	2
	日 本 研 究	2	グ ロー バ リ ゼ ー シ ョ ン と 文 化	2	国 際 社 会 に お け る 最 先 端 科 学	2
越 境 す る 文 化 と 文 学	2	地 域 連 携 入 門	2	現 代 生 活 と 生 命 化 学	2	
伝 統 文 化 を 学 ぶ	2	地 域 と メ デ ィ ア	2	健 康 と 生 命 科 学	2	
D 群	【歴史を学ぶ】		【法と政治を学ぶ】		【情報を学ぶ】	
	社 会 思 想 史	2	日 本 国 憲 法	2	知 能 情 報	2
	歴 史 と 文 化	2	社 会 生 活 と 法	2	生 体 情 報	2
	文 学 と 歴 史	2	現 代 政 治 論	2	感 性 情 報	2
	地 域 と 文 化 史	2	法 と 情 報	2	生 命 情 報	2
	芸 術 史	2	環 境 法 学	2	認 知 科 学	2
	歴 史 と メ デ ィ ア	2	家 族 関 係 と 法	2		
	国 際 化 の 歴 史	2	少 子 高 齢 社 会 と 法	2		
	生 活 の 歴 史	2	財 産 と 法	2		
			消 費 者 問 題	2		
		市 場 と 法	2			
		組 織 と 法	2			
		ま ち づ くり と 行 政	2			
		地 域 創 生	2			

学際融合系	
授業科目	単位
情報社会のセキュリティ	2
食 品 科 学	2
身 体 の 健 康 科 学	2
ト レ ー ニ ン グ 論	2
ス ポ ー ツ に お け る 健 康 管 理	2
保 健 衛 生	2
基 礎 ス ポ ー ツ 健 康 科 学	2
癒 し の 諸 相	2
自 己 の 探 求	2
ス ポ ー ツ 文 化 論	2
心 の 健 康 科 学	2
生 涯 ス ポ ー ツ 論	2
環 境 教 育 の 実 践	2
ケ ア の 倫 理	2
人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病	2
フ ロ ン ト ラ ン ナ ー 講 座	2
ラ イ フ プ ラ ン 教 育	2
社 会 を 読 み 解 く (ク リ テ ィ カ ル シ ン キ ン グ)	2
文 章 表 現 論	2

導入共通科目	
【文学部・経済学部・法学部・経営学部】	
授業科目	単位
甲南大学と平生鈺三郎	2
共 通 基 礎 演 習	2
I T 基 礎	2
A I ・ デ ー タ サ イ エ ン ス 入 門	2
【理工学部・知能情報学部】	
授業科目	単位
甲南大学と平生鈺三郎	2
共 通 基 礎 演 習	2
A I ・ デ ー タ サ イ エ ン ス 入 門	2

【履修方法】

- 1 文学部、経済学部、法学部および経営学部の学生は、次に定めるとおり 18 単位を修得しなければならない。
 - (1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上
 - (2) 学際融合系の授業科目の中から、2 単位以上
 - (3) 導入共通科目「甲南大学と平生鈺三郎」「共通基礎演習」「IT 基礎」「AI・データサイエンス入門」の中から、2 単位以上
- 2 理工学部および知能情報学部の学生は、次に定めるとおり 16 単位を修得しなければならない。
 - (1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上
 - (2) 学際融合系の授業科目の中から、2 単位以上
 - (3) 導入共通科目「甲南大学と平生鈺三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から、2 単位以上

【『基礎共通科目』履修上の注意事項】

履修に際しては、ひとつの群に偏らず、A、B、C、D の各群からバランスよく履修することが望ましい。

国際言語文化科目の概要

「国際言語文化科目」は、21世紀にふさわしい国際舞台で活躍できる人材育成のために設置された科目である。外国語教育を通して国際理解・異文化理解を深め、「国際人」としての教養を高め、自己表現能力を養い、世界の人々と共生できる資質を育成することがこの科目の目的である。

地球規模での協力・協調が求められる国際化時代がすでに到来している。世界の人々と共存し、多文化社会で共生していくためには、母語とは異なった言語を学び、自国の文化とは異なった文化を理解して、その言語で日本文化や自分の考え方を表現できる能力を身につけることが、さまざまな分野で求められている。今後、さらに加速化されるであろう国際化、グローバル化の時代においては、複数の外国語の運用能力を持ち、異文化間調整能力を身につけることの重要性がさらに大きくなっていくと思われる。「国際言語文化科目」は英語および第2外国語の運用能力を養成し、また、英語および第2外国語とその言語圏の文化、歴史、生活習慣、考え方、日本との関わりなどを学び、広い世界観を養うことを目指している。一部の科目では、実社会において豊富な経験を積んだ実務家をゲストスピーカーとして招聘し、実践的教育を考慮したカリキュラムとなっている。また、さらにもう一つの外国語を学び、その言語圏で適切にコミュニケーションを図るための方法や、外国語を学ぶのに有意義な知識（言語の歴史、言語学習に関する理論など）に関する講義を受講することもできる。

A 国際文化コース

1年次で履修した第2外国語の学習を発展させると同時に、言葉の背景にある歴史や文化を学び、ものの考え方や行動様式も理解し、併せてグローバルな問題に目を向け、広い世界観を育む国際理解の態度を養う。

B 国際コミュニケーションコース

第2外国語の基礎的な言語運用能力を向上させるとともに、英語で自分の考えを発表する自己表現能力を開発する。さらに、第2外国語・英語・日本語という3つの言語が織りなすトライアングルの構造の中で複眼的な視野をもって異文化を理解すると同時に、世界の人々と積極的にコミュニケーションを図る能力を伸ばすため、さらに、もう一つの外国語を学び、その言語圏で適切にコミュニケーションを図るための方法を学んだり、外国語を学ぶのに有意義な知識（言語の歴史、言語学習に関する理論など）も得ることができる。

C-1 ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語インテンシブコース

German/French/Chinese/Korean Studies や中級科目を主として履修することで、集中的に第2外国語を学ぶ。実践的な第2外国語の能力を伸ばし、当該言語に関する各種の資格取得なども射程に入れる。それとともに、当該言語圏に関する知識や事情も併せて身につけるという総合的な学習を目指す。また、第2外国語圏への長期、短期の留学を目指す者のためのコースでもある。

C-2 英語インテンシブコース

中級英語科目、English Regions I・IIおよび国際理解 English をまとめて履修することで、集中的に英語力を向上させる。実践的な英語運用能力を伸ばすことはもちろんであるが、語学習得に必須の教養・知識も併せて身につけるという総合的な学習を通して、語学に関する各種の資格取得なども射程に入れる。また、3年次以降で英語の上級科目の履修を希望する者や海外への長期、短期の留学を目指す者にも適している。

D 理系国際言語文化コース

科学技術に関する英語文献や研究書の講読を行う上で必要となる言語運用能力の基礎を築くと共に、英語で研究発表できる自己表現能力を開発する。実践的な言語運用能力を伸ばすことはもちろんであるが、英語圏、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語圏の国際的な科学技術に関する情報・知識も併せて身につける。各国・地域の重要な産業や科学事情等についても理解を深める。

E 外国人留学生国際文化コース

文系学部の外国人留学生（正規留学生）を対象に、効率的かつ効果的に日本語や国際文化科目の内容を集約的に学ぶ。

国際言語文化科目授業科目表

[2022年度（令和4年度）の入学生に適用]

授 業 科 目		単 位	備 考
A 国際文化コース			
外 国 語 科 目	中 級 ド イ ツ 語	I 4	基礎外国語科目の単位を修得した科目で、左記の科目の中から4単位以上を選択必修
	中 級 ド イ ツ 語	II 4	
	中 級 ド イ ツ 語	III 4	
	中 級 フ ラ ン ス 語	I 4	
	中 級 フ ラ ン ス 語	II 4	
	中 級 フ ラ ン ス 語	III 4	
	中 級 中 国 語	I 4	
	中 級 中 国 語	II 4	
	中 級 中 国 語	III 4	
	中 級 韓 国 語	I 4	
国 際 文 化 科 目	言 語 文 化 I	2	2 単位以上選択必修 ただし、言語と文化 I・IIは第2外国語に対応する科目に限る。
	言 語 文 化 II	2	
	言 語 文 化 III	2	
	言 語 文 化 中 国	2	
	言 語 文 化 韓 国	2	
	言 語 文 化 其 他	2	
	国 際 理 解 A	2	2 単位以上選択必修
	国 際 理 解 B	2	
	国 際 理 解 C	2	
	国 際 理 解 D	2	
科 導 入 共 通 目	甲 南 大 学 と 平 生 汎 三 郎 共 通 基 礎 演 習 I AI・ デ ー タ サ イ エ ン ス 入 門	2 2 2 2	2 単位以上選択必修
B 国際コミュニケーションコース			
外 国 語 科 目	中 級 ド イ ツ 語	I 4	基礎外国語科目の単位を修得した科目で、左記の科目の中から4単位以上を選択必修
	中 級 ド イ ツ 語	II 4	
	中 級 ド イ ツ 語	III 4	
	中 級 フ ラ ン ス 語	I 4	
	中 級 フ ラ ン ス 語	II 4	
	中 級 フ ラ ン ス 語	III 4	
	中 級 中 国 語	I 4	
	中 級 中 国 語	II 4	
	中 級 中 国 語	III 4	
	中 級 韓 国 語	I 4	
目	中 級 英 語 Speaking	4	4 単位以上選択必修
	中 級 英 語 Presentation	4	
	中 級 英 語 Listening	4	
	中 級 英 語 Writing	4	
	中 級 英 語 Life Topics I	2	
中 級 英 語 Life Topics II	2		
留 学 支 援 科 目	English Regions I	2	
	English Regions II	2	
国 際 文 化 科 目	国 際 理 解 English	2	2 単位以上選択必修 ただし、ドイツ語圏・フランス語圏・中国語圏・韓国語圏でのコミュニケーション入門は第2外国語に対応する科目以外とする。
	外 国 語 総 論 (ヨーロッパ編)	2	
	外 国 語 総 論 (アジア編)	2	
	ド イ ツ 語 圏 での コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 入 門	2	
	フ ラ ン ス 語 圏 での コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 入 門	2	
	中 国 語 圏 での コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 入 門	2	
韓 国 語 圏 での コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 入 門	2		
科 導 入 共 通 目	甲 南 大 学 と 平 生 汎 三 郎 共 通 基 礎 演 習 I AI・ デ ー タ サ イ エ ン ス 入 門	2 2 2 2	2 単位以上選択必修

18 単位修得しなければならない。

18 単位修得しなければならない。

授業科目		単位	備考
C-1 ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語インテンシブコース			
外国語科目	中級ドイツ語	4	基礎外国語科目の単位を修得した科目で、左記の科目の中から8単位以上選択必修
	中級ドイツ語	4	
	中級ドイツ語	4	
	中級ドイツ語	4	
	中級フランス語	4	
	中級フランス語	4	
	中級フランス語	4	
	中級フランス語	4	
	中級中国語	4	
	中級中国語	4	
	中級中国語	4	
	中級中国語	4	
	留学支援科目	German Studies I	
German Studies II		2	
French Studies I		2	
French Studies II		2	
Chinese Studies I		2	
Chinese Studies II		2	
Korean Studies I		2	
Korean Studies II	2		
国際文化科目	国際理解 A	2	
	国際理解 B	2	
	国際理解 C	2	
	国際理解 D	2	
科導入共通科目	甲南大学と平生 演習基礎	2	2単位以上選択必修
	共通基礎	2	
	IT基礎	2	
	AI・データサイエンス入門	2	
C-2 英語インテンシブコース			
外国語科目	中級英語 Speaking	4	18単位修得しなければならない。
	中級英語 Presentation	4	
	中級英語 Writing	4	
	中級英語 Pronunciation	2	
	中級英語 TOEFL	4	
	中級英語 Global Topics I	2	
	中級英語 Global Topics II	2	
	中級英語 Life Topics I	2	
中級英語 Life Topics II	2		
留学支援科目	English Regions I	2	
	English Regions II	2	
国際文化科目	国際理解 English	2	
科導入共通科目	甲南大学と平生 演習基礎	2	2単位以上選択必修
	共通基礎	2	
	IT基礎	2	
	AI・データサイエンス入門	2	

授業科目		単位	備考
D 理系国際言語文化コース			
国際言語科目	English for Science	2	4 単位以上選択必修
	Science Presentation	2	
	Science Writing	2	
	Science News I	2	
	Science News II	2	
	世界のサイエンス事情 I	2	
	世界のサイエンス事情 II	2	
国際文化科目	国際理解 A	2	ただし、言語と文化 I・II は第 2 外国語に対応する科目に限る。
	国際理解 B	2	
	国際理解 C	2	
	国際理解 D	2	
	国際理解 English	2	
	言語と文化 I ドイツ	2	
	言語と文化 II ドイツ	2	
	言語と文化 I フランス	2	
	言語と文化 II フランス	2	
	言語と文化 I 中国	2	
言語と文化 II 中国	2		
言語と文化 I 韓国	2		
言語と文化 II 韓国	2		
導入共通科目	甲南大学と平生 鈺三郎	2	2 単位以上選択必修
	共通基礎演習	2	
	AI・データサイエンス入門	2	
E 外国人留学生国際文化コース			
外国語科目	大学日本語中級 I	4	4 単位以上選択必修
	大学日本語中級 II	4	
	大学日本語上級 I	4	
	大学日本語上級 II	4	
国際文化科目	日本の文化事情 I	2	2 単位以上選択必修
	日本の文化事情 II	2	
	日本理解 I	2	2 単位以上選択必修
	日本理解 II	2	
	国際理解 A	2	
	国際理解 B	2	
	国際理解 C	2	
国際理解 D	2		
国際理解 English	2		
導入共通科目	甲南大学と平生 鈺三郎	2	2 単位以上選択必修
	共通基礎演習	2	
	IT基礎	2	
	AI・データサイエンス入門	2	
履修方法			
各コースの履修条件にしたがって、A、B、C-1、C-2、E の各コースは 18 単位、D コースは 16 単位を修得しなければならない。なお、対応する学部・コースの扱いは以下のとおりとする。			
(1) 文学部、経済学部、法学部及び経営学部の学生は、A、B、C-1 または C-2 から 1 コースのみ選択することができる。ただし、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生は、E コースのみ選択することができる。			
(2) 理工学部及び知能情報学部の学生は、D コースのみ選択することができる。			
各コースにおける導入共通科目は、2 単位以上修得しなければならない。			
また、国際言語文化科目各コースの所定単位を超えて修得した単位を、卒業必要単位に充てることはできない。			

〔『国際言語文化科目』履修上の注意事項〕

文学部・経済学部・法学部・経営学部

1. 履修条件として示されている「基礎外国語科目の単位を修得した科目」とは「1年次に選択し単位を修得した第2外国語科目」のことである。
2. 中級英語を履修するには College English 3科目4単位を、中級ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語（第2外国語）を履修するには基礎ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語（第2外国語）2科目4単位を修得していること。
3. 各自が登録しているコースに含まれる科目のうち、国際言語文化科目の所定の単位を超えて修得した単位は、卒業必要単位に充てることはできない。

理工学部・知能情報学部

各自が登録しているコースに含まれる科目のうち、国際言語文化科目の所定の単位を超えて修得した単位は、卒業必要単位に充てることはできない。

外国人留学生（正規留学生）

大学日本語中級を履修するには大学日本語入門2科目4単位を、大学日本語上級を履修するには大学日本語中級4単位を修得していること。

◆国際言語文化科目修了の証明書の発行について

国際言語文化科目を履修し、所定の単位を修得した者には、卒業時に国際言語文化科目修了の証明書を発行する。

はじめに

卒業の資格と学位

① 卒業要件

本学を卒業するためには、修業年限を満たし、学則に定められた単位を修得しなければなりません。修業年限とは卒業に必要な年数で4年間の在学年数が必要です。なお、休学期間は在学年数に含まれません。

② 卒業に必要な単位数 (2021年度以降入学者用)

次に定めるところに従って合計124単位以上修得しなければなりません。

導入基礎科目			
フレーム形成科目		必修	18単位
外国語科目	Core科目	必修	14単位
	Applied科目	自由選択	—
	Accelerated科目	自由選択	—
体育科目		必修	2単位
リベラル教育科目		選択必修	10単位
実践・創造科目		選択必修	24単位
プロジェクト科目	プロジェクト導入科目	選択必修	30単位
	研究プロジェクト科目		
	フィールドワーク科目		
	卒業研究プロジェクト科目	必修	8単位
キャリア関連科目		自由選択	—
特設科目		自由選択	—
中級・上級外国語科目		留学生用科目	—

合計124単位以上修得しなければならない

※大学日本語科目(大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ、大学日本語中級Ⅰ、大学日本語上級Ⅰ)は、外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生のみ履修することができる。

(a) 次の科目については、マネジメント創造学部の専門教育科目(授業科目)として卒業必要単位数に充てることができます。ただし、必修または選択必修の単位数に充てることはできません。

- (1) 基礎共通科目については、8単位以内
- (2) キャリア創生共通科目については、8単位以内
- (3) 生涯スポーツについては、3単位以内
- (4) 外国語科目のうち、第2外国語科目については、4単位以内
- (5) 西宮市大学共通単位講座については、4単位以内

(b) 履修方法による分類

科目分類	分類内容
必修科目	卒業するために必ず修得しなければならない科目です。
選択必修科目	区分された授業科目群のなかから、決められた単位数以上を修得しなければならない科目です。定められた単位数を超えて修得した単位は自由選択科目として卒業単位に算入されます。
自由選択科目	必修・選択必修科目以外で単位を修得することができる科目です。修得した単位は卒業単位に算入されます。
その他	自由に選んで単位を修得できますが、卒業単位として算入されない科目です。

(c) 学期について

名称	学修期間	履修登録の時期	成績結果の公表時期
通年科目	4月1日～翌年3月31日	前期	学年末(3月)
前期科目	4月1日～9月16日	前期	前期末(9月)
後期科目	9月17日～翌年3月31日	前期または後期	学年末(3月)
集中科目	夏期休暇または冬期休業中	前期	学年末(3月)

※授業期間や定期試験の日程、休業期間などは「学年暦」で定められています。

③ 学士の学位

卒業した者には、以下の学位が授与されます。

学部	学科	学士の名称
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	学士(マネジメント)

科目履修上の諸注意

1. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できません。
2. 配当年次が1年次の授業科目の多くは全てクラスを指定して実施します。クラス分けについては、<My KONAN>で確認してください。
3. 1年次に履修する体育科目については、西宮キャンパスと岡本キャンパス又は六甲アイランド体育施設間の専用バスが運行されます。

インターンシップ・ボランティアについて

本学部では、事前・事後指導を含め、一定の期間（時間数）実施するなどの条件を満たし、本学部で認められたインターンシップやボランティア活動等に対して、単位を認定する科目があります。詳細はガイダンス等に参加してご確認ください。

エリアスタディーズ

「エリアスタディーズ」は事前登録科目です。実施日程については、<My KONAN>で別途お知らせします。なお、定員に満たない場合や国際情勢の急変などによって中止する場合があります。各科目の詳細は募集時期に<My KONAN>及び国際交流センターホームページに掲載するので参照してください。

基礎共通科目

私たちが生きる現代社会においては、つねに唯一の正しい答えがあるとは限りません。複数の答えがある場合や、そもそも答えのない場合さえあります。こうした社会を生きる上で、正しいと思われる判断を行うには、正確な情報に基づき、理論的に施行し、結論を導くことが何より重要ですが、そのためには専門的・体系的な専門知識に加えて、幅広い教養が必要なことはいうまでもありません。

基礎共通科目は、そうした広範な教養を身につけること主たる目的とした科目です。

※マネジメント創造学部の学生が受講できる科目の詳細は、別途お知らせします。

キャリア創生共通科目

キャリア創生共通科目には、社会で必要とされる多様な実践的応用能力、例えば、法律・会計・財務・マネジメントに関する実務知識や、ITリテラシーなど、多種多様な科目が設けられています。

これらの科目は、社会で活躍するフィールドを広げる、すなわちキャリアの広がりを作り出していくことを目的とした、大学と社会を繋ぐ科目です。そのため、実社会において豊富な経験を積んだ実務家が担当するなど、実践的な教育を行う科目も多数含まれています。

西宮市大学共通単位講座

西宮市に所在する8大学・短期大学は、相互の協力交流を通じて教育課程の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を目指して「共通単位講座」を開講しています。

本講座には、センター科目とオンキャンパス科目が提供され、加盟大学に所属する学生は、各大学の定める範囲において、「単位互換履修生」として開講科目を履修し、単位を取得することができます。

なお、甲南大学マネジメント創造学部では、4単位を上限に、専門教育科目として卒業必要単位に充てることができます。

履修等については、別途配布する『単位互換履修生募集GUIDE』を確認してください。

マネジメント創造学部専門教育科目（授業科目）表に記載の科目以外に 卒業必要単位に充てられる科目について

次の科目については、マネジメント創造学部の専門教育科目（授業科目）として卒業必要単位数に充てることができます。ただし、必修または選択必修の単位数に充てることはできません。

1. 基礎共通科目 8単位以内（別表1）
2. キャリア創生共通科目 8単位以内（別表2）
3. 生涯スポーツ 3単位以内（別表3）
4. 外国語科目 4単位以内（別表4）
5. 西宮市共通単位講座 4単位以内（別冊子「単位互換履修生募集 GUIDE」）

◆対象科目について

別表・別冊子を参照してください。

※「1.基礎共通科目」の科目については、配当年次が1年次であっても、1年次前期には履修できません。後期以降履修可能です。ただし、以下の科目については、前期から履修が可能です。

- ・「甲南大学と平生夙三郎」
- ・「共通基礎演習」
- ・「IT 基礎」
- ・「AI・データサイエンス入門」

◆開講場所について

1～4の科目については岡本キャンパス、5の科目については西宮市大学交流センターで開講されます（オンデマンド授業を除く。）なお、岡本キャンパスで実施される科目は、西宮キャンパスの授業時間と異なりますので、移動時間も含めて履修可能か確認するようにしてください。

◆抽選科目について

実習設備に限りがある場合や、教育効果を高めるため、1クラスの履修者数に制限が設けられている科目は、抽選で履修者を決定します。履修希望者は、<My KONAN>メインメニュー『履修登録』にある『履修方法指定科目一覧』を参照の上、定められた期間内に抽選登録してください。

◆西宮市共通単位講座について

複数の大学から特色ある科目が提供され、他大学の学生や一般の社会人も受講することが出来る講座です。詳しくは事務室で配付している「単位互換履修生募集 GUIDE」を確認してください。

い。「単位互換履修生募集 GUIDE」は西宮市大学交流センターの WEB サイトからダウンロードすることも可能です。

申請方法や締切は<My KONAN>でお知らせします。履修方法や授業時間が甲南大学とは異なりますので、十分に注意してください。

【別表1】基礎共通科目 ※8単位以内

基礎共通科目	人文科学系	授業科目名	単位数	配当年次	到達目標								注意事項		
					A	B	C	D	E	F	G	H			
	A群 リベラルアーツ	哲学	2	1											CUBE生履修不可(→リベラル教育科目の「哲学の世界」にあたります。)
		倫理学	2	1											
		心理学	2	1											
		歴史学	2	1											
		文学	2	1											
		哲学プラクティス	2	1											
		女性学	2	1											
		現代の芸術	2	1											
		宗教学	2	1											CUBE生履修不可(→リベラル教育科目の「宗教と現代社会」にあたります。)
		B群 人間を学ぶ	生態人類学	2	1										3・4年次のみ
	環境と文学	2	1												
	芸術と社会	2	1												
	生命と倫理	2	1												
	人権(同和)の問題	2	1												
	感情・人格心理学	2	1												
	スポーツと身体知	2	1												
	C群 文化を学ぶ	ことばと社会	2	1											
	コミュニケーション論	2	1											1年次のみ	
	イメージと文化	2	1												
	日本語の諸相	2	1												
	比較文化	2	1												
	芸術学基礎論	2	1												
	現代思想	2	1												
	近現代の文学	2	1												
	日本研究	2	1												
	越境する文化と文学	2	1												
	伝統文化を学ぶ	2	1											抽選科目	
	D群 歴史を学ぶ	社会思想史	2	1											
	歴史と文化	2	1											CUBE生履修不可(→リベラル教育科目の「現代社会とヨーロッパ」にあたります。)	
	文学と歴史	2	1												
	地域と文化	2	1												
	芸術史	2	1												
	歴史とメディア	2	1												
	国際化の歴史	2	1												
	生活の歴史	2	1											CUBE生履修不可(→リベラル教育科目の「文化と歴史の世界」にあたります。)	
	社会科学系	リベラルA群 アーツ	社会学	2	1										
			法学	2	1										CUBE生履修不可CUBE生履修可(→リベラル教育科目の「法学の世界」にあたります。)
			経済学	2	1										
			経営学	2	1										
			政治学	2	1										
			地理学	2	1										
			国際関係論	2	1										
		B群 経済を学ぶ	産業と経済	2	1										
		企業と情報	2	1											
		歴史と経済	2	1											
		現代社会と企業	2	1											
		世界と経済	2	1											
暮らしと経済		2	1												
福祉と経済		2	1												
社会とファイナンス		2	1											抽選科目	
スポーツと経済		2	1												
C群 社会を学ぶ		現代社会論	2	1											
現代都市論		2	1												
公共哲学		2	1												
環境人間学		2	1											CUBE生履修不可(→リベラル教育科目の「環境と社会」にあたります。)	
社会福祉論		2	1												
家族関係論		2	1												
歴史と社会		2	1											CUBE生履修不可(→リベラル教育科目の「現代社会とアジア」にあたります。)	
ボランティア論		2	1												
グローバリゼーションと文化		2	1												
地域連携入門		2	1												
地域とメディア		2	1											CUBE生履修不可(→リベラル教育科目の「情報とメディア」にあたります。)	
D群 法と政治を学ぶ		日本国憲法	2	1											
社会生活と法		2	1												
現代政治論		2	1												
法と情報		2	1												
環境法学		2	1												
家族関係と法		2	1												
少子高齢社会と法		2	1												
財産と法		2	1												
消費者問題	2	1													
市場と法	2	1													
組織と法	2	1													
まちづくりと行政	2	1													
地域創生	2	1													

基礎共通科目	自然科学系	リベラルA群 アーツ	数学	2	1								○	CUBE生履修不可(→リベラル教育科目の「数学の世界」にあたります。)	
			物理学	2	1									○	
			化学	2	1									○	
			生物学	2	1									○	
			地学	2	1									○	
		生命化学	2	1									○		
		自然B群 ぶの歴史を	地球の歴史	2	1									○	
			生物の歴史	2	1									○	
			自然と人間	2	1									○	3・4年次のみ
			自然科学史	2	1									○	
			技術の歴史	2	1									○	
		C群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学	2	1									○	
			現代生活と生物学	2	1									○	
			現代生活と数理科学	2	1									○	
			現代生活と最先端科学	2	1									○	
	核と環境		2	1									○		
	環境の化学		2	1									○		
	大気と海洋		2	1									○		
	国際化と情報ネットワーク		2	1									○		
	国際社会における最先端科学		2	1									○		
	現代生活と生命化学		2	1									○		
	健康と生命科学		2	1									○		
	情報D群 を学ぶ		知能情報	2	1									○	
		生体情報	2	1									○		
		感性情報	2	1									○		
		生命情報	2	1									○		
		認知科学	2	1									○		
	学際融合系	情報社会のセキュリティ	2	1									○		
		食品科学	2	1									○		
		身体健康科学	2	1					○	○					
		トレーニング論	2	1	○								○	○	
		スポーツにおける健康管理	2	1					○	○					
		保健衛生	2	1									○		
		基礎スポーツ健康科学	2	1					○	○				CUBE生履修不可(→リベラル教育科目の「スポーツと健康」にあたります。)	
		癒しの諸相	2	1									○		
		自己の探求	2	1									○	1～3クラスは抽選科目	
		スポーツ文化論	2	1									○		
		心の健康科学	2	1									○	CUBE生履修不可(→リベラル教育科目の「心理学と現代社会」にあたります。)	
		生涯スポーツ論	2	1						○	○				
		環境教育の実践	2	1									○	キャンパス外での野外実習を含むため、土曜日を加えた変則日程。	
		ケアの倫理	2	1									○		
		人体の構造と機能及び疾病	2	1									○		
フロントランナー講座		2	1									○	抽選科目		
ライフプラン教育		2	1									○			
社会を読み解く(クリティカルシンキング)		2	1	○	○							○	○	抽選科目	
文章表現論	2	1	○	○							○	○	抽選科目		
導入共通 科目	甲南大学と平生飢三郎	2	1	○								○	複数クラスのいずれを履修しても構いません。		
	共通基礎演習	2	1	○	○							○	変則日程。1年次のみ。抽選登録科目。		
	IT基礎	2	1	○	○							○	抽選科目。1年次優先。自身の情報機器持参が必須条件。		
	AI・データサイエンス入門	2	1	○	○							○	オンデマンド形式。(時間割は便宜上、土曜日3限と表示)		

「共通基礎演習」

導入教育という趣旨から、1年次のみを対象とします。
 変則日程で実施しますので、シラバスをよく読んで日程や授業内容を把握したうえで、履修登録してください。
 15回のうち前半は全クラスで合同授業を実施し、後半はクラスに分かれ、少人数のグループでひとつのテーマに取り組みます。
 なお、プロジェクト学習を行うため、1クラスの履修者数に制限を設けています。
 第1回は全体オリエンテーションを行います。第1回の授業の段階で<My KONAN>上で履修が確定していない場合でも、履修を希望する学生は、必ず出席してください。

「自己の探求」

- ① 1～3クラス: ワークショップ型授業であるため、履修者数に制限を設けています(1クラス15名)。
 履修希望者は定められた期限内に下表の授業コードで抽選登録してください。
 第1回の授業は、1～3クラス合同でオリエンテーションを行うので必ず出席してください。
- ② 4クラス : 講義及びワークショップ型授業併用のクラスであるため、人数制限は設けません。

【卒業必要単位数】

1. フロンティアサイエンス学部の学生は、次に定めるところに従って合計128単位以上を修得しなければならない。

基礎共通科目	8 単位
国際言語文化科目	2 単位
外国語科目	
[先進科学コース]	
College English Reading and Writing	} 4 単位
College English Listening	
College English Speaking	
[学際科学コース]	
College English Reading and Writing	} 4 単位
College English Listening	
College English Speaking	
中級英語	4 単位以上
保健体育科目	2 単位
キャリア創生共通科目	
[学際科学コース]	20単位以上
専門教育科目	
必修科目	
教養科目	2 単位
基礎科目	10単位
基礎専門科目	8 単位
専門科目	12単位
選択必修科目	
[先進科学コース]	
A 群 (専門科目)	24単位以上
B 群 (応用専門科目・教養科目)	14単位以上
[学際科学コース]	
A 群 (専門科目)	12単位以上
B 群 (応用専門科目・教養科目)	8 単位以上
コース必修科目	
[先進科学コース]	
基礎科目	5 単位
専門科目	27単位
[学際科学コース]	
基礎科目	2 単位
専門科目	12単位
自由選択科目	
合 計	128単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業単位に充てることができる。但し、必修または選択必修科目の単位数に充てることができない。

- (1) 基礎共通科目（岡本開講科目）のうち自然科学系の授業科目及びキャリア創生共通科目（「ベーシック・キャリアデザイン」、「インターンシップ」、「エリアスタディーズV」は除く）。
- (2) 基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語、大学日本語入門については、いずれか1外国語4単位以内。
- (3) 「エリアスタディーズI～IV」及び「エリアスタディーズVI～X」については、2単位以内。
- (4) 関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目については、学際科学コース選択者は16単位以内。

フロンティアサイエンス学部履修登録科目の単位制限に関する内規

【令和3年度以降入学生に適用】

1 フロンティアサイエンス学部の学生が履修登録できる授業科目の単位数は次のとおりとする。
 なお、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
通年で合計44単位以内	通年で合計44単位以内	通年で合計44単位以内	通年で合計44単位以内

2 次に掲げる科目の単位については、前項の単位制限を受けない。

- (1) 専門教育科目のうち、「ベーシック・キャリアデザイン」、「理系キャリアデザイン」、「インターンシップ」、「エリアスタディーズV」
- (2) キャリア創生共通科目のうち、「海外ボランティアI」等、学生の単位認定申請または履修登録申請に基づき、履修登録期間外に別途履修登録を行う科目

基礎共通科目 授業科目表

〔2022年度（令和4年度）の入学生に適用〕

	人文科学系		社会科学系		自然科学系	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
A 群	【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】	
	哲学	2	社会学	2	数学	2
	倫理学	2	法学	2	物理学	2
	心理学	2	経済学	2	化学	2
	歴史学	2	経営学	2	生物	2
	文学	2	政治学	2	地学	2
	哲学プラクティス	2	地理学	2	生命化学	2
	女性学	2	国際関係論	2		
	現代の芸術	2				
	宗教	2				
B 群	【人間を学ぶ】		【経済を学ぶ】		【自然の歴史を学ぶ】	
	生態人類学	2	産業と経済	2	地球の歴史	2
	環境と文学	2	企業と情報	2	生物の歴史	2
	芸術と社会	2	歴史と経済	2	自然と人間	2
	生命と倫理	2	現代社会と企業	2	自然科学史	2
	人権（同和）の問題	2	世界と経済	2	技術の歴史	2
	感情・人格心理学	2	暮らしと経済	2	環境と地理	2
	スポーツと身体知	2	福祉と経済	2		
		社会とファイナンス	2			
		スポーツと経済	2			
C 群	【文化を学ぶ】		【社会を学ぶ】		【現代科学を学ぶ】	
	ことばと社会	2	現代社会論	2	現代生活と物理学	2
	コミュニケーション論	2	現代都市論	2	現代生活と生物学	2
	イメージと文化	2	公共哲学	2	現代生活と数理科学	2
	日本語の諸相	2	環境人間学	2	現代生活と最先端科学	2
	比較文化	2	社会福祉論	2	核と環境	2
	芸術学基礎論	2	家族関係論	2	環境の化学	2
	現代思想	2	歴史と社会	2	大気と海洋	2
	近現代の文学	2	ボランティア論	2	国際化と情報ネットワーク	2
	日本研究	2	グローバリゼーションと文化	2	国際社会における最先端科学	2
	越境する文化と文学	2	地域連携入門	2	現代生活と生命化学	2
伝統文化を学ぶ	2	地域とメディア	2	健康と生命科学	2	
D 群	【歴史を学ぶ】		【法と政治を学ぶ】		【情報を学ぶ】	
	社会思想史	2	日本国憲法	2	知能情報	2
	歴史と文化	2	社会生活と法	2	生体情報	2
	文学と歴史	2	現代政治論	2	感性情報	2
	地域と文化	2	法と情報	2	生命情報	2
	芸術史	2	環境法学	2	認知科学	2
	歴史とメディア	2	家族関係と法	2		
	国際化の歴史	2	少子高齢社会と法	2		
	生活の歴史	2	財産と法	2		
			消費者問題	2		
			市場と法	2		
		組織と法	2			
		まちづくりと行政	2			
		地域創生	2			

学際融合系	
授業科目	単位
情報社会のセキュリティ	2
食品科学	2
身体健康科学	2
トレーニング論	2
スポーツにおける健康管理	2
保健衛生	2
基礎スポーツ健康科学	2
癒しの諸相	2
自己の探求	2
スポーツ文化論	2
心の健康科学	2
生涯スポーツ論	2
環境教育の実践	2
ケアの倫理	2
人体の構造と機能及び疾病	2
フロントランナー講座	2
ライフプラン教育	2
社会を読み解く(クリティカルシンキング)	2
文章表現論	2

導入共通科目	
授業科目	単位
甲南大学と平生鈺三郎	2
共通基礎演習	2
AI・データサイエンス入門	2

履修方法

フロンティアサイエンス学部は、人文科学系、社会科学系、学際融合系（フロントランナー講座を除く）、導入共通科目「甲南大学と平生鈺三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の授業科目の中から8単位を修得しなければならない。また、所定単位を越えて修得した単位を、卒業必要単位に充てることはできない。

〔「基礎共通科目」履修上の注意事項〕

- 履修に際しては、ひとつの群に偏らず、A、B、C、Dの各群からバランスよく履修することが望ましい。
- 下表の科目については、履修条件に従って履修すること。

授業科目	履修条件
「自己の探求」（学際融合系）	「心の健康科学」（学際融合系）の単位を修得していること。

(趣旨)

第1条 この内規は、甲南大学内部質保証規程に基づき、個別内部質保証委員会の設置単位、組織、運営等について必要な事項を定める。

(個別内部質保証委員会)

第2条 個別内部質保証委員会は、本大学の方針に基づく各部局の目的・目標の実現に向けて活動し、絶えず自主・自律的な自己点検・評価活動を行い、組織及び活動の改善・向上に取り組むとともに、毎年度その結果及び状況を全学内部質保証委員会に報告する。

2 個別内部質保証委員会として、組織別内部質保証委員会及び機能別内部質保証委員会を設ける。

(組織別内部質保証委員会)

第3条 各組織における内部質保証活動を実践するため、組織別内部質保証委員会を置く。

2 組織別内部質保証委員会の単位並びに委員長及び事務担当部課室は、次のとおりとする。

単位	委員長	事務担当部課室
文学部	文学部長	文学部事務室
理工学部	理工学部長	理工学部・知能情報学部事務室
経済学部	経済学部長	経済・法・経営学部合同事務室
法学部	法学部長	経済・法・経営学部合同事務室
経営学部	経営学部長	経済・法・経営学部合同事務室
知能情報学部	知能情報学部長	理工学部・知能情報学部事務室
マネジメント創造学部	マネジメント創造学部長	西宮キャンパス事務室
フロンティアサイエンス学部	フロンティアサイエンス学部長	ポートアイランドキャンパス事務室
人文科学研究科	人文科学研究科長	文学部事務室
自然科学研究科	自然科学研究科長	理工学部・知能情報学部事務室
社会科学研究科	社会科学研究科長	経済・法・経営学部合同事務室
フロンティアサイエンス研究科	フロンティアサイエンス研究科長	ポートアイランドキャンパス事務室
法学研究科	法科大学院長	法科大学院事務室
全学教育推進機構	全学教育推進機構長	全学教育推進機構事務室
国際言語文化センター	国際言語文化センター所長	全学教育推進機構事務室
スポーツ・健康科学教育研究センター	スポーツ・健康科学教育研究センター所長	全学教育推進機構事務室
全学共通教育センター	全学共通教育センター所長	全学教育推進機構事務室
教務部	教務部長	教務部
学生部	学生部長	学生部
キャリアセンター	キャリアセンター所長	キャリアセンター
図書館	図書館長	図書館事務室
教育学習支援センター	教育学習支援センター所長	全学教育推進機構事務室
国際交流センター	国際交流センター所長	国際交流センター事務室
社会連携機構	社会連携機構長	社会連携機構事務室
地域連携センター	地域連携センター所長	社会連携機構事務室
リカレント教育センター	リカレント教育センター所長	社会連携機構事務室
教職教育センター	教職教育センター所長	教職教育センター事務室
公認心理師養成センター	公認心理師養成センター所長	公認心理師養成センター事務室
カウンセリングセンター	カウンセリングセンター所長	カウンセリングセンター・人間科学研究科事務室
フロンティア研究推進機構	フロンティア研究推進機構長	フロンティア研究推進機構事務室
先端生命工学研究所	先端生命工学研究所長	ポートアイランドキャンパス事務室
人間科学研究科	人間科学研究科所長	カウンセリングセンター・人間科学研究科

		研究所事務室
ビジネス・イノベーション研究所	ビジネス・イノベーション研究所長	フロンティア研究推進機構事務室
総合研究所	総合研究所長	フロンティア研究推進機構事務室
アドミッションセンター	アドミッションセンター所長	アドミッションセンター

(機能別内部質保証委員会)

第4条 大学運営の重要な機能について組織横断的に内部質保証活動を行うため、機能別内部質保証委員会を置く。

- 機能別内部質保証委員会は、各部局の自己点検・評価の結果を共有するとともに、結果に基づいて共通する課題を明確にし、改善・向上に取り組む。
- 機能別内部質保証委員会の単位並びに委員長及び事務担当部課室は、次のとおりとする。

単位	委員長	事務担当部課室
大学運営管理部門(学長、副学長、学長補佐、教務部長、学生部長、キャリアセンター長、図書館長、アドミッションセンター長、学長室)	副学長	学長室
全学教育部門(全学教育推進機構事務室、教務部、教職教育センター事務室、公認心理師養成センター事務室)	全学教育推進機構長	全学教育推進機構事務室
学生支援部門(学生部、キャリアセンター、学生相談室)	学生部長	学生部
研究推進部門(フロンティア研究推進機構、先端生命工学研究所、人間科学研究所、ビジネス・イノベーション研究所、総合研究所)	フロンティア研究推進機構長	フロンティア研究推進機構事務室
法人運営管理部門(経営企画室、総務部、財務部、管財部、広報部、学長室、監査部)	副学長	学長室

(構成等)

第5条 組織別内部質保証委員会及び機能別内部質保証委員会(以下、「各委員会」という。)の委員の構成は、各委員会の単位ごとに定める。ただし、当該組織の運営を担う機関の構成員をもつてあてを原則とする。

- 各委員会は、当該委員会の委員の構成を学長に報告することとする。なお、委員の構成を変更した場合も同様とする。

(開催)

第6条 各委員会の委員長は、所管する委員会を招集し、その議長となる。

- 各委員会は、各年度の計画策定、期中における進捗状況の確認及び期末の結果検証を行うために開催し、その他必要のあるときはその都度開催する。

(内部質保証活動)

第7条 個別内部質保証委員会における内部質保証活動は、甲南大学内部質保証規程第8条に基づき実施する。

- 内部質保証活動の詳細については、別に定める。
- 各委員会は、運用上の細則を各委員会の単位ごとに定めることができる。

(改廃)

第8条 この内規の改廃は、学長決定により行う。

附 則

- この内規は、平成30年6月14日から施行する。
- 自己点検・評価個別委員会に関する覚書(平成17年2月10日部局長会議承認)は廃止する。

附 則

この内規は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年6月23日から施行する。

(内部質保証の方針)

第1条 本大学は、甲南大学学則第1条及び甲南大学大学院学則第1条に掲げる目的の実現に向けて、組織及び活動を不断に検証し、その改善・向上に努め、適切な水準にあることを本大学の責任で説明・証明していく恒常的・継続的プロセスを実践する。

(内部質保証の体制)

第2条 本大学は、前条に掲げる内部質保証を実践するため、甲南大学内部質保証委員会(以下、「全学内部質保証委員会」という。)、個別内部質保証委員会及び外部評価委員会を置く。

(全学内部質保証委員会)

第3条 全学内部質保証委員会は、本大学の内部質保証体制を統括・運営し、内部質保証に係る重要事項を協議する。

2 全学内部質保証委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 内部質保証に関する全学共通の方針の策定
- (2) 自己点検・評価の結果等を改善・向上に結びつける仕組みの整備と運営
- (3) 自己点検・評価結果及び外部評価結果の検証
- (4) 前号の検証結果に基づく改善・向上の方策等に関する検討及び提言
- (5) その他内部質保証に関する全学的な事項

3 全学内部質保証委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長補佐
- (4) 学部長
- (5) 大学院研究科長
- (6) 全学教育推進機構長、社会連携機構長
- (7) 全学共通教育センター所長
- (8) 教務部長、学生部長、キャリアセンター所長、図書館長、学長室長、学長室事務部長
- (9) スポーツ・健康科学教育研究センター所長、国際言語文化センター所長、教育学習支援センター所長、国際交流センター所長、地域連携センター所長、リカレント教育センター所長、教職教育センター所長、公認心理師養成センター所長、カウンセリングセンター所長
- (10) フロンティア研究推進機構長、先端生命工学研究所長、人間科学研究所長、ビジネス・イノベーション研究所長、総合研究所長
- (11) 入試制度検討委員会委員長、高大接続推進企画運営委員会委員長、アドミッションセンター所長
- (12) 経営企画室長、総務部長、財務部長、管財部長、広報部長
- (13) 学長が指名する者 若干名

4 委員長は、前項第1号の委員がこれにあたる。

5 委員長は、全学内部質保証委員会を招集し、その議長となる。

6 副委員長は、前項第2号の委員のうち1名を委員長が指名し、委員長が不在のときはその職務を代行する。

7 委員は、学長が委嘱する。

8 第3項第13号の委員の任期は、原則として2年とする。ただし、再任を妨げない。

9 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(企画・調整作業部会)

第4条 全学内部質保証委員会に企画・調整作業部会を置く。

2 企画・調整作業部会は、前条に定める全学内部質保証委員会の任務を遂行するため、次の作業を行う。

- (1) 各々の個別内部質保証委員会から報告された自己点検・評価結果及び外部評価委員会から報告された外部評価結果の検証
- (2) 前号の検証結果に基づく改善・向上の方策等に関する企画・調整

3 企画・調整作業部会は、次の者をもって構成する。

- (1) 学長が指名する副学長 1名
- (2) 学長が指名する学長補佐又は教職員 若干名

4 部会長は、前項第1号の者がこれにあたる。

(教育改革会議)

第5条 教育改革会議は、内部質保証のサイクルを確立するため、甲南大学運営機構に関する規程に基づき、第3条第2項第4号の提言のうち、全学の教育改革の方針、戦略の策定及び企画立案に関する事項を審議する。

(個別内部質保証委員会)

第6条 個別内部質保証委員会は、本大学の方針に基づく各部局の目的・目標の実現に向けて活動し、絶えず自主・自律的な自己点検・評価活動を行い、組織及び活動の改善・向上に取り組むとともに、毎年度その結果及び状況を全学内部質保証委員会に報告する。

2 個別内部質保証委員会は、各部局又は関連する領域ごとに設置する。

3 個別内部質保証委員会の設置単位、組織、運営等については、別に定める。

(外部評価委員会)

第7条 外部評価委員会は、本大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況に関する自己点検・評価の客観性・妥当性を高めるため、第三者の観点から定期的に検証し、全学内部質保証委員会に報告・助言する。

2 外部評価委員会は、学長が任命する学外有識者で構成する。

3 外部評価委員会の運営は、学長が指名する副学長が行う。

4 外部評価委員会の組織、運営等については、別に定める。

(内部質保証の手続)

第8条 本大学は、本規程に定める体制の下で、次の内部質保証に関する手続により、本大学が掲げる目的の実現に向けて恒常的・継続的に改善・向上に取り組む。

(1) 全学内部質保証委員会及び個別内部質保証委員会は、大学全体又は各部局の中期的及び年度ごとの目標及び方針を策定する。

(2) 本大学及び各部局は、前号の目標及び方針に基づく活動を実践する。

(3) 個別内部質保証委員会は、年度ごとに各部局又は関連する領域に関する活動報告をとりまとめ、自己点検・評価を行い、全学内部質保証委員会に報告する。

(4) 外部評価委員会は、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、第三者の観点から定期的に検証し、全学内部質保証委員会に報告・助言する。

(5) 全学内部質保証委員会は、年度ごとに自己点検・評価結果及び外部評価結果を検証し、検証結果に基づく改善・向上の方策等を検討・提言する。

(6) 学長は、全学内部質保証委員会の提言に基づく大学全体又は各部局の目標・方針の策定を指示する。

2 全学内部質保証委員会は、内部質保証活動に必要な情報を収集・整備し、自己点検・評価及び検証に活用する。

3 全学内部質保証委員会は、内部質保証活動の状況と計画に関する情報を公開する。

4 学長は、全学及び各部局の自己点検・評価及び外部評価の結果に対する改善・向上の方針について、年度ごとに理事長に報告するものとする。

(自己点検・評価)

第9条 本大学は、学校教育法(昭和22年法律第26号)の定めに基づき、教育研究水準の向上に資するため、本規程に定める内部質保証の方針及び手続により、本大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検及び評価を行い、結果を公表する。

2 専門職大学院の自己点検・評価については、別に定める。

(自己点検・評価項目)

第10条 基本的な自己点検・評価項目は、本学が認証評価を受ける機関が設定する「評価基準」とする。

(認証評価機関による評価)

第11条 本大学は、年度ごとに実施する自己点検・評価の結果を統括整理し、自己点検・評価報告書を取りまとめ、7年以内の期間に認証評価機関による評価を受けるものとする。

(所管部局)

第12条 全学の内部質保証に関する事務は、学長室が行う。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、大学会議の審議を経て、学長が提案し、理事会が行う。

附 則

1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、甲南大学自己点検・評価規程(平成5年3月18日大学会議制定)は廃止する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

(趣旨)

第1条 この内規は、甲南大学内部質保証規程に基づき、個別内部質保証委員会の設置単位、組織、運営等について必要な事項を定める。

(個別内部質保証委員会)

第2条 個別内部質保証委員会は、本大学の方針に基づく各部局の目的・目標の実現に向けて活動し、絶えず自主・自律的な自己点検・評価活動を行い、組織及び活動の改善・向上に取り組むとともに、毎年度その結果及び状況を全学内部質保証委員会に報告する。

2 個別内部質保証委員会として、組織別内部質保証委員会及び機能別内部質保証委員会を設ける。

(組織別内部質保証委員会)

第3条 各組織における内部質保証活動を実践するため、組織別内部質保証委員会を置く。

2 組織別内部質保証委員会の単位並びに委員長及び事務担当部課室は、次のとおりとする。

単位	委員長	事務担当部課室
文学部	文学部長	文学部事務室
理工学部	理工学部長	理工学部・知能情報学部事務室
経済学部	経済学部長	経済・法・経営学部合同事務室
法学部	法学部長	経済・法・経営学部合同事務室
経営学部	経営学部長	経済・法・経営学部合同事務室
知能情報学部	知能情報学部長	理工学部・知能情報学部事務室
マネジメント創造学部	マネジメント創造学部長	西宮キャンパス事務室
フロンティアサイエンス学部	フロンティアサイエンス学部長	ポートアイランドキャンパス事務室
人文科学研究科	人文科学研究科長	文学部事務室
自然科学研究科	自然科学研究科長	理工学部・知能情報学部事務室
社会科学研究科	社会科学研究科長	経済・法・経営学部合同事務室
フロンティアサイエンス研究科	フロンティアサイエンス研究科長	ポートアイランドキャンパス事務室
法学研究科	法科大学院長	法科大学院事務室
全学教育推進機構	全学教育推進機構長	全学教育推進機構事務室
国際言語文化センター	国際言語文化センター所長	全学教育推進機構事務室
スポーツ・健康科学教育研究センター	スポーツ・健康科学教育研究センター所長	全学教育推進機構事務室
全学共通教育センター	全学共通教育センター所長	全学教育推進機構事務室
教務部	教務部長	教務部
学生部	学生部長	学生部
キャリアセンター	キャリアセンター所長	キャリアセンター
図書館	図書館長	図書館事務室
教育学習支援センター	教育学習支援センター所長	全学教育推進機構事務室
国際交流センター	国際交流センター所長	国際交流センター事務室
社会連携機構	社会連携機構長	社会連携機構事務室
地域連携センター	地域連携センター所長	社会連携機構事務室
リカレント教育センター	リカレント教育センター所長	社会連携機構事務室
教職教育センター	教職教育センター所長	教職教育センター事務室
公認心理師養成センター	公認心理師養成センター所長	公認心理師養成センター事務室
カウンセリングセンター	カウンセリングセンター所長	カウンセリングセンター・人間科学研究科事務室
フロンティア研究推進機構	フロンティア研究推進機構長	フロンティア研究推進機構事務室
先端生命工学研究所	先端生命工学研究所長	ポートアイランドキャンパス事務室
人間科学研究科	人間科学研究科所長	カウンセリングセンター・人間科学研究科

		研究所事務室
ビジネス・イノベーション研究所	ビジネス・イノベーション研究所長	フロンティア研究推進機構事務室
総合研究所	総合研究所長	フロンティア研究推進機構事務室
アドミッションセンター	アドミッションセンター所長	アドミッションセンター

(機能別内部質保証委員会)

第4条 大学運営の重要な機能について組織横断的に内部質保証活動を行うため、機能別内部質保証委員会を置く。

- 機能別内部質保証委員会は、各部局の自己点検・評価の結果を共有するとともに、結果に基づいて共通する課題を明確にし、改善・向上に取り組む。
- 機能別内部質保証委員会の単位並びに委員長及び事務担当部課室は、次のとおりとする。

単位	委員長	事務担当部課室
大学運営管理部門(学長、副学長、学長補佐、教務部長、学生部長、キャリアセンター長、図書館長、アドミッションセンター長、学長室)	副学長	学長室
全学教育部門(全学教育推進機構事務室、教務部、教職教育センター事務室、公認心理師養成センター事務室)	全学教育推進機構長	全学教育推進機構事務室
学生支援部門(学生部、キャリアセンター、学生相談室)	学生部長	学生部
研究推進部門(フロンティア研究推進機構、先端生命工学研究所、人間科学研究所、ビジネス・イノベーション研究所、総合研究所)	フロンティア研究推進機構長	フロンティア研究推進機構事務室
法人運営管理部門(経営企画室、総務部、財務部、管財部、広報部、学長室、監査部)	副学長	学長室

(構成等)

第5条 組織別内部質保証委員会及び機能別内部質保証委員会(以下、「各委員会」という。)の委員の構成は、各委員会の単位ごとに定める。ただし、当該組織の運営を担う機関の構成員をもつてあてを原則とする。

- 各委員会は、当該委員会の委員の構成を学長に報告することとする。なお、委員の構成を変更した場合も同様とする。

(開催)

第6条 各委員会の委員長は、所管する委員会を招集し、その議長となる。

- 各委員会は、各年度の計画策定、期中における進捗状況の確認及び期末の結果検証を行うために開催し、その他必要のあるときはその都度開催する。

(内部質保証活動)

第7条 個別内部質保証委員会における内部質保証活動は、甲南大学内部質保証規程第8条に基づき実施する。

- 内部質保証活動の詳細については、別に定める。
- 各委員会は、運用上の細則を各委員会の単位ごとに定めることができる。

(改廃)

第8条 この内規の改廃は、学長決定により行う。

附 則

- この内規は、平成30年6月14日から施行する。
- 自己点検・評価個別委員会に関する覚書(平成17年2月10日部局長会議承認)は廃止する。

附 則

この内規は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年6月23日から施行する。

(内部質保証の方針)

第1条 本大学は、甲南大学学則第1条及び甲南大学大学院学則第1条に掲げる目的の実現に向けて、組織及び活動を不断に検証し、その改善・向上に努め、適切な水準にあることを本大学の責任で説明・証明していく恒常的・継続的プロセスを実践する。

(内部質保証の体制)

第2条 本大学は、前条に掲げる内部質保証を実践するため、甲南大学内部質保証委員会(以下、「全学内部質保証委員会」という。)、個別内部質保証委員会及び外部評価委員会を置く。

(全学内部質保証委員会)

第3条 全学内部質保証委員会は、本大学の内部質保証体制を統括・運営し、内部質保証に係る重要事項を協議する。

2 全学内部質保証委員会の任務は、次のとおりとする。

- (1) 内部質保証に関する全学共通の方針の策定
- (2) 自己点検・評価の結果等を改善・向上に結びつける仕組みの整備と運営
- (3) 自己点検・評価結果及び外部評価結果の検証
- (4) 前号の検証結果に基づく改善・向上の方策等に関する検討及び提言
- (5) その他内部質保証に関する全学的な事項

3 全学内部質保証委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長補佐
- (4) 学部長
- (5) 大学院研究科長
- (6) 全学教育推進機構長、社会連携機構長
- (7) 全学共通教育センター所長
- (8) 教務部長、学生部長、キャリアセンター所長、図書館長、学長室長、学長室事務部長
- (9) スポーツ・健康科学教育研究センター所長、国際言語文化センター所長、教育学習支援センター所長、国際交流センター所長、地域連携センター所長、リカレント教育センター所長、教職教育センター所長、公認心理師養成センター所長、カウンセリングセンター所長
- (10) フロンティア研究推進機構長、先端生命工学研究所長、人間科学研究所長、ビジネス・イノベーション研究所長、総合研究所長
- (11) 入試制度検討委員会委員長、高大接続推進企画運営委員会委員長、アドミッションセンター所長
- (12) 経営企画室長、総務部長、財務部長、管財部長、広報部長
- (13) 学長が指名する者 若干名

4 委員長は、前項第1号の委員がこれにあたる。

5 委員長は、全学内部質保証委員会を招集し、その議長となる。

6 副委員長は、前項第2号の委員のうち1名を委員長が指名し、委員長が不在のときはその職務を代行する。

7 委員は、学長が委嘱する。

8 第3項第13号の委員の任期は、原則として2年とする。ただし、再任を妨げない。

9 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(企画・調整作業部会)

第4条 全学内部質保証委員会に企画・調整作業部会を置く。

2 企画・調整作業部会は、前条に定める全学内部質保証委員会の任務を遂行するため、次の作業を行う。

- (1) 各々の個別内部質保証委員会から報告された自己点検・評価結果及び外部評価委員会から報告された外部評価結果の検証
- (2) 前号の検証結果に基づく改善・向上の方策等に関する企画・調整

3 企画・調整作業部会は、次の者をもって構成する。

- (1) 学長が指名する副学長 1名
- (2) 学長が指名する学長補佐又は教職員 若干名

4 部会長は、前項第1号の者がこれにあたる。

(教育改革会議)

第5条 教育改革会議は、内部質保証のサイクルを確立するため、甲南大学運営機構に関する規程に基づき、第3条第2項第4号の提言のうち、全学の教育改革の方針、戦略の策定及び企画立案に関する事項を審議する。

(個別内部質保証委員会)

第6条 個別内部質保証委員会は、本大学の方針に基づく各部局の目的・目標の実現に向けて活動し、絶えず自主・自律的な自己点検・評価活動を行い、組織及び活動の改善・向上に取り組むとともに、毎年度その結果及び状況を全学内部質保証委員会に報告する。

2 個別内部質保証委員会は、各部局又は関連する領域ごとに設置する。

3 個別内部質保証委員会の設置単位、組織、運営等については、別に定める。

(外部評価委員会)

第7条 外部評価委員会は、本大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況に関する自己点検・評価の客観性・妥当性を高めるため、第三者の観点から定期的に検証し、全学内部質保証委員会に報告・助言する。

2 外部評価委員会は、学長が任命する学外有識者で構成する。

3 外部評価委員会の運営は、学長が指名する副学長が行う。

4 外部評価委員会の組織、運営等については、別に定める。

(内部質保証の手続)

第8条 本大学は、本規程に定める体制の下で、次の内部質保証に関する手続により、本大学が掲げる目的の実現に向けて恒常的・継続的に改善・向上に取り組む。

(1) 全学内部質保証委員会及び個別内部質保証委員会は、大学全体又は各部局の中期的及び年度ごとの目標及び方針を策定する。

(2) 本大学及び各部局は、前号の目標及び方針に基づく活動を実践する。

(3) 個別内部質保証委員会は、年度ごとに各部局又は関連する領域に関する活動報告をとりまとめ、自己点検・評価を行い、全学内部質保証委員会に報告する。

(4) 外部評価委員会は、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、第三者の観点から定期的に検証し、全学内部質保証委員会に報告・助言する。

(5) 全学内部質保証委員会は、年度ごとに自己点検・評価結果及び外部評価結果を検証し、検証結果に基づく改善・向上の方策等を検討・提言する。

(6) 学長は、全学内部質保証委員会の提言に基づく大学全体又は各部局の目標・方針の策定を指示する。

2 全学内部質保証委員会は、内部質保証活動に必要な情報を収集・整備し、自己点検・評価及び検証に活用する。

3 全学内部質保証委員会は、内部質保証活動の状況と計画に関する情報を公開する。

4 学長は、全学及び各部局の自己点検・評価及び外部評価の結果に対する改善・向上の方針について、年度ごとに理事長に報告するものとする。

(自己点検・評価)

第9条 本大学は、学校教育法(昭和22年法律第26号)の定めに基づき、教育研究水準の向上に資するため、本規程に定める内部質保証の方針及び手続により、本大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検及び評価を行い、結果を公表する。

2 専門職大学院の自己点検・評価については、別に定める。

(自己点検・評価項目)

第10条 基本的な自己点検・評価項目は、本学が認証評価を受ける機関が設定する「評価基準」とする。

(認証評価機関による評価)

第11条 本大学は、年度ごとに実施する自己点検・評価の結果を統括整理し、自己点検・評価報告書を取りまとめ、7年以内の期間に認証評価機関による評価を受けるものとする。

(所管部局)

第12条 全学の内部質保証に関する事務は、学長室が行う。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、大学会議の審議を経て、学長が提案し、理事会が行う。

附 則

1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、甲南大学自己点検・評価規程(平成5年3月18日大学会議制定)は廃止する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

KONAN 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 取組概要

※赤字部分がKONAN 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの概要

プログラム目的 本学学生の数理・データサイエンス・A I への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・A I を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とする。

プログラム対象科目 「AI・データサイエンス入門」
(2単位)

プログラム修了要件 対象科目の単位を修得すること。

プログラム対象科目
数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力を修得する。

〈参考〉プログラム修了者がデータサイエンスの学びを深めるための科目群
本プログラム修了後も、学生の関心に応じてデータサイエンスの学びを深めていくことが可能となっている。

1年次

AI・データサイエンス入門

- AI・DSの歴史および現状に関する基本的な理解
- 最先端のAI・DS技術の実例を通じた今後の展望の理解
- 表計算ソフトを用いた基礎的統計処理によるデータの可視化方法の習得
- 情報セキュリティに関する基礎的な知識の習得
- データの収集と適正な管理のための知識の習得

2年次以降

統計基礎 (統計基礎 I) ※1年次配当

- データの基礎的なまとめ方や、グラフ・表による表現方法
- 実験や調査・観察に関する適切なデータ収集方法の基礎知識
- 母集団と標本の基礎概念 (標本誤差の知識など)

統計活用情報分析 I

- Pythonを用いたより応用的なデータ処理方法
- LaTeXを用いたレポート作成、プレゼンテーション方法
- Reveal.jsを用いたプレゼンテーション方法

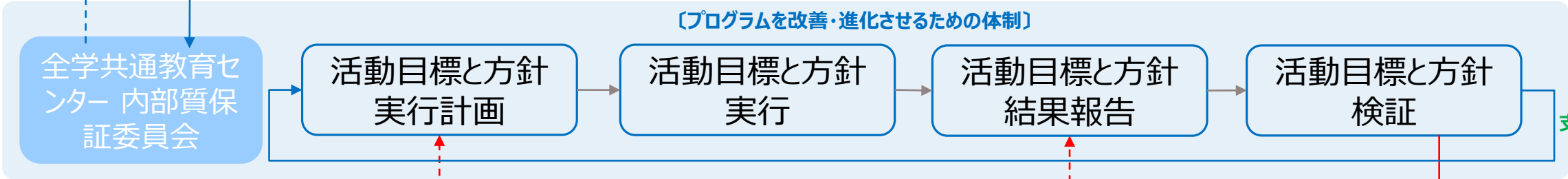
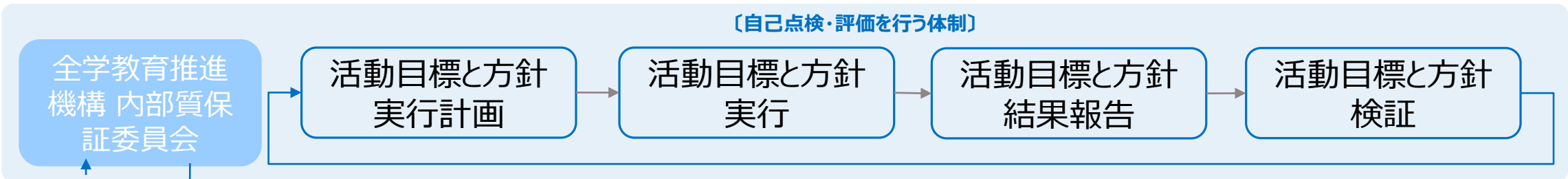
データサイエンス基礎 (統計基礎 II)

- pythonの基礎的な知識の修得

統計活用情報分析 II

- Pythonを用いた統計的分析法や機械学習手法
- 問題を発見し、解決のためにデータを収集し分析できる
- 収集したデータについて仮説の構築と検証を行える統計力
- 分析結果をもとにプレゼンテーションを行える

KONAN 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 補足資料 (推進体制)



第三者評価
外部評価

IR (全学教育推進機構)
支援

報告 フィードバック

報告 フィードバック

支援

支援